



ウォルターズ・クルワー TeamMate 監査ソリューション

Security State Bank & Trust: 地域社会のニーズに 応える



テキサス州フレデリックスバーグの地元コミュニティのニーズに今まで以上に応えたいという願いから、**Security State Bank & Trust**は、1941年4月12日に旧バックホーン・サルーンの建物内で営業を開始しました。以前から地域社会で広く親しまれていた、このサルーンの象徴であるオジロジカのロゴは、現在も使用されています。今では、機会を捉えて成長し続ける力強い民間法人の地域銀行 Security State Bank & Trustを表すトレードマークとなっています。

Wolters Kluwer の TeamMate は、Security State Bank & Trust の最高内部監査責任者であるセロメロ氏のインタビューを行う機会を得ました。インタビューでは、ロメロ氏と監査チームのメンバーが成功し続けるために TeamMate+ がどのように役立っているかについて話し合われました。



概要紹介とチームの力学

TeamMate: もしよろしければ、まずご自分のことと、勤務先の組織、そして統括されている内部監査チームについてお聞かせください。

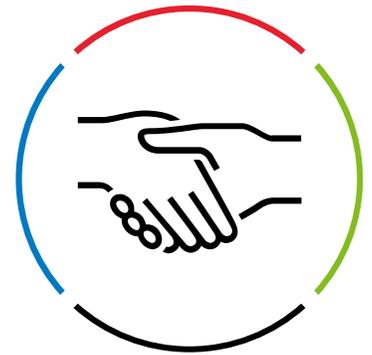
セレ ロメロ氏: 私は、金融学の学位を取得して大学を卒業した後、銀行窓口係として非常に地味なスタートを切りました。そして数年にわたってさまざまな機会を経てから、私は最終的に、Security State Bank & Trustの最高内部監査責任者という現在の職に就くことになりました。当行は、中小企業とも大企業とも取引を行っており、州内に18の拠点を持ち、資産規模は20億ドル弱となっています。現在、当行のチームには合計6名のTeamMate+ ユーザーがおり、内部監査部門に3名、コンプライアンス部門に3名が勤務しています。

内部監査最高責任者に就任して間もなく、私は多くの監査プロセスに調整と改善の余地があるということに気づきました。例えば、当時の業務の多くで、依然として大量の紙が使われ続けていました。ワークフローの効率を上げ、21世紀に対応し、リスク評価やレポート目標などを改善するために活用できるさまざまなツールが存在していることは私も知っていました。

TeamMate: 効率が重要だということは多くのお客様からお聞きしています。目標の達成に向けた取り組みの大部分は効率に関するものです。しかし、品質についてはどうでしょうか？内部監査人がそれぞれ個別に、Excel スプレッドシートなどの文書で作業している場合は、何か重要なことを見落とす可能性が常にあります。情報が適切に転記されていなかったり、タイムリーに更新されていなかったりする場合もあるでしょう。

セレ ロメロ氏: あらゆる書類に一貫性があるようにして、監査全体において矛盾がないようにするのは極めて重要です。監査は、スケジュール作成やプランニングから、テスト、文書リクエスト、レポート、最終的なまとめまで多岐にわたります。こうした監査の各段階が正確で矛盾がないようにすることが特に重要です。その点が確保できれば、他の監査人が監査中や監査後に参加し、これまでの作業を確認して、発見事項をすぐに把握して追いつくことも可能になります。

内部監査人は、プロフェッショナルであると同時に信頼される存在でなければなりません。しかしWordとExcelを使ってその場しのぎの対応をしていると、書類の体裁も悪い上に管理もままならないでしょう。TeamMate+ なら、そのような懸念や問題は一切ありません。何らかの更新が行われると、作業内容がリアルタイムで保存されます。万一、システムがダウンした場合でも、TeamMate+ には信頼性の高いリスク緩和機能が組み込まれています。心配する必要は決してありません。





監査プロセスの強化

TeamMate: Security State Bank & Trust では、かなり早い段階で内部監査プロセスを更新する必要があったとおっしゃっていました。その取り組みについて、また TeamMate+ の導入に向けてチームから支持をどのように集めたかについて、教えてくださいいただけますか？

セレ ロメロ氏: 私は直属の上司のところへ行き、率直に相談することから始めました。私たちは、戦略的な意思決定をどのように行うか、将来の目標をどうするか、そしてテクノロジーを活用して効率性を高め、より大きな価値を組織にもたらすためにはどうすればよいか等について話し合いました。銀行業務や金融機関の場合、究極の目標は成長し続けることです。この業界で停滞すれば、すぐに取り残されてしまいます。

私は当行でキャリアを始めてから2年ほどで、停滞の兆しを見つけました。しかし金融業界と内部監査は進化し続けており、私も共に進化したいと思いました。昔ながらのペンと紙を使うやり方を維持すれば、時として一部の人は好かれるかもしれませんが、現実的とは言えません。私のチームは毎年およそ110件、コンプライアンス部門は平均で50件近くの監査を行っています。大量のバインダーと書類に目を通す必要があります。個々の監査レポートとその月の全活動の情報をまとめるには、3~4日かかります。もっと良い方法があるはずで、何かを変える必要がありました。

私は、どうすれば監査業務を強化できるかを検討し始めた頃、プロセスに注目し、TeamMate+ のデモを見るようになりました。TeamMate+ があれば、管理業務に費やす時間を減らし、価値を提供する仕事に集中できるようになるため、これこそ私たちに必要なものだと感じたのです。

組織に付加価値を提供できることが、当行の監査責任者にとっても最大のセールスポイントでした。そこから私たちは全体像に注目し、それまでに実施していた各種の監査の状況に基づき、追加で従業員を雇うべきかを検討し始めました。私たちは、これは業務を改善できるチャンスだと話し合いました。正しいやり方で取り組むのです。最終的に、当行の監査委員会と CEO は、TeamMate を導入するのが理にかなっているということを理解しました。

TeamMate: TeamMate を使っていない部分の監査プロセスで、改善したいと思っているところはありますか？

セレ ロメロ氏: 財務報告関連の内部統制についてお話ししますと、Federal Deposit Insurance Corporation Improvement Act (連邦預金保険公社改善法) の状況を監視し、それに準拠することが重要です。統制の現状をすべて文書化して記録しなければなりません。現時点では、私とその管理責任者を務めています。しかし、今の当行では、組織全体であらゆる情報がさまざまなスプレッドシートに記録されています。私の理想は、最終的にこれらの情報をすべて TeamMate+ に追加することです。私個人の目標として、統制の現状に関する情報をもとに、関連するリスクを分類して、すべてを私が望むように機能させたいと思っています。

TeamMate+： 組織の効率化を推進

TeamMate: 今までお話しいただいた内容以外に、TeamMate+は組織に全体としてどのような価値をもたらすと思いますか？監査計画に組み込まれているすべての支店や部門に対し、実施されている仕事の価値をどのように説明しますか？

セレ ロメロ氏: 過去1カ月、四半期、および1年間にわたって行ってきた取り組み内容をすべて集約できるTeamMate+のようなツールがあれば、その情報をどのように分割して利用するかは別に考えるとしても、非常に有益であることは間違いありません。

過去のさまざまなデータに関する重要なトレンド情報を迅速に生成し、新規アカウントとの相違点を特定し、業務履歴を確認して経営陣グループと共有することにより、高リスクおよび中リスクの例外事項を今まで以上に正確に特定することが可能になります。当行はTeamMate+によって、ビジネスと組織に関する的確な意思決定を行うために必要な正しい情報を経営陣に効率的に提供できるようになりました。当行の内部監査チームは、年間を通じてレビューするあらゆる範囲の情報を経営陣に伝達する経路の役割を果たしています。

TeamMate: 監査のライフサイクルの各側面（計画立案、リスク評価、往査、文書管理など）において、より「自動化」されたアプローチを取ることで、ユーザーがアクセスして作業できるように情報を共通の場所で維持・保存することは、チームにとってどれほど重要でしたか？

セレ ロメロ氏: すべての情報はTeamMate+で一元管理されています。共有ドライブやその辺のファイルキャビネットで情報がなかなか見つからなくて困る、といったこともありません。これにより私たちのチームは、最初から監査業務に集中できる体制と枠組みを手に入れることができました。

すべてはトップから始まり、リスク評価が監査計画の原動力となります。そして監査計画は、今後1年間に予定されている各プロジェクトの原動力となります。そしてそれらの監査から、発見事項が導き出されます。TeamMate+には、こうした情報を修正し、追跡するために必要なあらゆるものが揃っています。

その次が、レポート作成業務です。TeamMate+はこのプロセスもシステム内に組み込んでおり、シームレスかつ拡張可能な機能を利用し、レポートを迅速に配布してレビューの準備を整えることができます。またレポートをカスタマイズし、必要に応じて大まかなバージョンも詳細なバージョンも作れるので、極めて柔軟です。

TeamMate+は、何の心配もなく利用できます。すべてが揃っていて、互いにうまく連携しているからです。当行ではすべてを個別に開発する必要がなくなったため、社員が疲労困憊したり、暗中模索したりすることもなくなりました。

TeamMate: 監査およびチーム管理の観点からお尋ねします。チームの業務内容が可視化されたことで、全体的な効率はどうのように向上しましたか？TeamMate+を導入してから、実施できる監査の件数が増えた一方、作業をやり直す心配は減りましたか？

セレ ロメロ氏: TeamMate+のチームビューから、十分な詳細情報がわかるようになっています。プロジェクトのワークフローとワークフローのルールがカスタマイズ可能で、システムに組み込まれているため、プロジェクトやスケジュールを管理する際に役立っています。全体として、私のチームに関しては、各プロセスをトータルで今まで以上に上手に管理できるようになったと思います。私は監査スケジュールの流れを把握すると同時に、スタッフを疲れさせないように目配りできるようになりました。また、私のチームが年間のベンチマーク目標をそれぞれ達成しているかどうか簡単に確認できるようになりました。ワークフローを実行するのにかかる時間を正確に把握できるということは、仕事を適時に完了できるということです。これらの点で、私にとっても素晴らしいツールだと思います。

「私たちは、これは業務を改善できるチャンスだと話し合いました。正しいやり方で取り組むのです。最終的に、当行の監査委員会とCEOは、TeamMateを導入するのが理にかなっているということを理解しました。」

セレ ロメロ氏
最高内部監査責任者
Security State Bank & Trust



「過去1カ月、四半期、および1年間にわたって行ってきた取り組み内容をすべて集約できる TeamMate+ のようなツールがあれば、その情報をどのように分割して利用するかは別に考えるとしても、非常に有益であることは間違いありません。」

セレ ロメロ氏
最高内部監査責任者
Security State Bank & Trust

多次元的な「ディメンション」

TeamMate: TeamMate+ の「ディメンション」機能は、あなたのチームと監査業務にとってどのように役立っていますか？

セレ ロメロ氏: ディメンションは優れたツールです。当行では内部監査と監査コンプライアンスという両輪のアプローチを採用しており、各部門がそれぞれ自身のスケジュールを管理しています。監査の分野では、例えば第三者監査など、私が把握しておくべき他の領域もあります。そのため、私はこうした情報を確認する目的で、3~4つの異なるディメンション（または環境）を利用しています。必ずしも変えなくてもよいのですが、時には物事を異なる視点で見る必要もあります。ディメンションのおかげで、私は自分のニーズに最も合った方法でシステムを構築することができました。

これはすべてコンプライアンスをベースとしており、各ディメンションにはそれぞれ独自のリスク評価、監査計画プロジェクト、および発見事項があります。ワンクリックで、各監査を独自のディメンションに分割することができるのです。もし第三者監査に集中したい場合は、ディメンションをシームレスに切り替え、必要なあらゆる情報を表示できます。例えば私は、従業員福利厚生プラン監査 (401K)、外部融資審査チーム、規制当局 (テキサス州銀行局など) に関連する業務を含め、さまざまな仕事を担当しており、それらの切り替えが可能です。リスク評価から監査計画、そして問題追跡までスムーズに切り替えられます。ディメンションは非常に自由度が高く、それらのすべての情報にアクセスできます。

内部監査の未来

TeamMate: 内部監査業務はここ数年で大きく変化を遂げています。各種の基準も更新されたばかりです。2023年には誰もがESGとコンプライアンスについて話していました。今では人工知能(AI)が話題になっています。次は何でしょうか？この仕事の未来はどうなると思いますか？

セレ ロメロ: プロフェッショナルとして懐疑的な姿勢を常に維持することが、私たちにとっては最も重要です。監査人は常に、疑問を投げかけ、物事を徹底的に考え、既成概念にとらわれない思考力を持つ必要があります。今後AIは、内部監査の未来に関わってくることになるでしょう。AIが提供する機能は私たちにとって役立つ場合があります。主に比較的単純な、総勘定元帳の取引情報のアップロードや、異常値がどこにあるかの迅速な特定などのプロセスです。またAIは、計算やアルゴリズムに基づいて、

特定の事項についてより細かく調査すべきかどうかを内部監査人に助言することもできるでしょう。しかし、潜在的な問題を解読し、さらなる分析や調査が実際に必要になるかどうかを最終的に判断するのは、依然として内部監査人の仕事です。すべての問題を決して同じように見ることはできません。全体として、AIは良いツールだと私も思いますが、内部監査業務の代わりになるものではありません。今後2年ほどの状況がどうなるのか、AIで何ができるようになるのか、またその限界はどこにあるのかについて、私自身も非常に興味があります。

お問い合わせ先

日本

東京都港区三田1-3-31
FORECAST 三田5階

詳細については、tm.wolterskluwer.com
をご覧ください。

南北アメリカ

4221 W Boy Scout Blvd #500
Tampa, FL 33607
U.S.A.

ヨーロッパ、中東、アフリカ

8th Floor
30 Churchill Place
Canary Wharf
London
E14 5RE
United Kingdom
電話：+44 20 3197 6566

アジア太平洋

5 Shenton Way
#20-01/03 UIC Building
Singapore 068808